



小川 純文 議員
(政清会)

問 本町における社会資本（上下水道・道路）整備の今後の考えは

答 有利な起債事業の活用による財源確保に努め計画的に整備を実施したい

問

本町においても、上下水道や道路といった施設が整備後相当の年数を経過し、近い将来における維持管理費や改修・更新費用の増加が懸念される。今後も持続可能なまちづくりを進めるため、計画的な社会資本整備に努めなければならぬ。ついては以下の点について伺う。

- (1) 上下水道事業の今後のあり方について
- ① 水道管、下水道管の老朽化の現状は。
- ② 老朽化した管路の更新計画は。
- (2) 道路の維持補修や改修等の今後のあり方について
- ① 道路の老朽化の現状、点検、補修の状況は。
- ② 十勝中央大橋を含む、広域農道の道路昇格による道路整備は。
- ③ 道路の維持補修と改修に関する過去3年間の実績と今後の計画は。
- (3) 町発注の主な工事において、町内業者の過去3年間の受注実績は。

町長

① 上下水道管路は350・8km布設され、標準的な耐用年数40年を経過した管路は16・6%、うち漏水発生の可能性が高い塩化ビニル管が55%を占めている。下水道管路は167・1km布設され、標準的な耐用年数50年を経過した管路は無く、40年経過した管路も0・9%と少ない状況で、大半が強度の高い遠心力鉄筋コンクリート管となっている。

② 上下水道管路は、道路改良等に合わせての布設替などを中心に行っているが、基幹的な管路や塩化ビニル管などを優先的に更新し、順次計画的に整備しなければならぬ。下水道管路は、平成30年度に下水道ストックマネジメント計画の基本計画を策定し、今年度、施設の修繕・改築5か年計画を策定した上で、令和2年度以降、施設の修繕・改築工事を実施していく予定で、管路もこの計画に基づき実施していきたい。

(2) ① 整備後30年以上経過した道路は、市街地で概ね7割、郊外地で

概ね5割ある。日常の町道管理業務により実施しているパトロールの報告、公区長や住民からの通報など、その都度担当職員が現地確認・点検し、危険箇所、損傷が激しい箇所などから順次補修工事を実施している。

② 十勝中央大橋を含む広域農道は、当初の計画に比べ大幅に交通量が増加し、共同管理する音更町と共に、国道38号から音更町の道帯広浦幌線までの区間について道道への昇格要望を行っている。

③ 過去3年実績は、下表のとおり。今後の計画としては、先進自治体の道路老朽化対策を調査・研究するとともに、交付金事業や交付税措置など有利な起債事業の活用による財源確保に努め、3カ年実施計画に位置付けて計画的に実施していきたい。

計画的に実施していきたい。

道路維持補修・改修工事実績（上段） / 町発注工事の町内業者受注実績（下段）

◇道路の維持補修と改修工事	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	路線数	金額(万円)	路線数	金額(万円)	路線数	金額(万円)
道路維持補修の路線数および金額 (舗装補修および道路付帯施設補修)	166	5,771	140	5,774	160	5,872
道路改修の路線数および金額 (改良舗装および舗装強化)	9	2億4,729	11	2億7,958	10	2億3,620
◇町発注の主な工事（入札分）	件数	金額(万円)	件数	金額(万円)	件数	金額(万円)
町全体の入札工事件数および金額	148	27億679	116	14億4,901	102	12億3,099
上記のうち町内業者の受注実績 (町内業者の受注率)	133	25億7,599	105	13億5,990	93	11億6,566
		95.17%		93.85%		94.69%

(3) 町内業者の過去3年間の受注実績は左表のとおり。今後も町内業者の育成を念頭に、適切な入札執行に努めたい。

再質問 今後の整備財源の確保について具体的な考えは。

交付税措置のある公共施設等適正管理推進事業債の活用について検討を進めるとともに、国に対して臨時交付金制度の要望を行っている。